

バレイシヨ新品種「メイホウ」について

\*沢畑 秀・田淵尚一・藤山俊計・\*\*知識敬道・小村国則・\*\*\*亀川 昭・西山 登・泉 省吾  
池田 稔・永尾嘉孝・\*\*\*松原徳行・石橋祐二  
(長崎県総合農林試験場・\*九州農業試験場・\*\*カルビーポテト株式会社・\*\*\*長崎県立農業経営大学校)

Hide SAWAHATA, Shoichi TABUCHI, Toshikazu FUJIYAMA, Takamichi CHISHIKI, Kuninori KOMURA, Akira KAMEGAWA, Noboru NISHIYAMA, Shogo IZUMI, Minoru IKEDA, Yoshitaka NAGAO, Noriyuki MATSUBARA and Yuji ISHIBASHI : A New Potato Cultivar "Meihou"

バレイシヨ新品種「メイホウ」は、1986年にバレイシヨ農林28号として登録され、長崎県で奨励品種に採用された。ここに本品種の特性等の概要を報告し、普及上の参考に供したい。本品種の育成にあたっては多くの関係者各位に多大のご協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。

1. 来歴および育成経過

1971年に長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場(農林水産省指定試験地)で、青枯病に強くて食味が優れている「チザワ」を母とし、比較的高でん粉で多収な「長系80号」を父として交配・採種し、以後選抜を続けた。1976年から長系83号、1983年から西海16号の系統名で特性検定他各種の試験に供試してきた。その結果、成績良好と認められ、バレイシヨ農林28号として登録された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性 茎長は「ニシユタカ」並みの短茎であり、茎数は「デジマ」並みで春作では少なく、秋作では多い。花の数は「農林1号」並みでやや多く、花色は紫である。イモの形は短だ円体で、皮色は淡黄で光沢があり、目は浅く、大イモで外観は優れている。

2) 生態的特性 休眠明け期は秋作用種イモでは「デジマ」より遅く、「ニシユタカ」より早い。春作用種イモでは「デジマ」よりやや遅い。早晩性は「デジマ」や「ニシユタカ」よりやや早く中生に属する。収量は「デジマ」と対比して春作は同等で、秋作ではやや少ない。でん粉価は「デジマ」と同等ないしやや高い。水煮の肉色は淡黄ないし黄白、肉質は中、食味は「デジマ」並みに良く調理用に適する。病害には疫病と乾腐病にやや弱い、青枯病に強く、そうか病、軟腐病、粉状そうか病などに対しても中程度の抵抗性を示す。イモの商品価値を損なう生理的障害の裂開、二次生長、肌あれは「デジマ」より少ない。

3. 適地および奨励品種採用県

青枯病耐病性、良質良食味品種として長崎県全域が適地と考えられ、採用県の長崎では青枯病に弱い「デジマ」、そうか病に弱い「ニシユタカ」、品質がやや劣る「タチバナ」の一部にかわって普及することが期待される。

第1表 メイホウの一般特性(長崎県総農試愛野馬鈴薯支場)

形 質	作 期	メイホウ	デジマ	ニシユタカ
萌 芽 期	春 秋	早	早	早
茎 長	春 秋	稍 短	稍 長	稍 短
早 晩 性	春・秋	中	稍 晩	稍 晩
イモの形	春 秋	短だ円体	短だ円体	扁 球
皮 色	春 秋	淡 黄	淡 黄	淡黄褐
目 の 深 浅	春・秋	浅	浅	浅
外 観 の 良 否	春・秋	良	良	稍 良
食 味	春 秋	良	良	稍 良
病 害 抵 抗 性	青 枯 病	春・秋	強	弱
	そうか病	春 秋	中	弱
	粉状そうか病	春 秋	稍 弱	弱
軟 腐 病	春 秋	稍 強	強	極 弱
	春 秋	稍 強	中	稍 強
上イモ重(kg/a)	春 秋	303	311	375
平均1個重(g)	春 秋	324	375	380
でん粉価	春 秋	113	116	112
	春 秋	107	125	127
でん粉価	春 秋	12.2	10.9	11.8
	春 秋	13.9	13.7	12.9
調 査 年 次	春 秋	1983年～1985年(調査地は主として育成地)		
		1982年～1984年( )		

4. 栽培上の注意

やせ地での栽培や秋作の晩植えでは低収となるので、適切な肥培管理が必要である。春作マルチ栽培では萌芽がやや遅いことや、貯蔵中に乾腐病によるいもの腐敗を起すことがあるので注意を要する。青枯病には強いが、多発圃場ではかなりの被害を受け、そうか病には「ニシユタカ」よりは強いが、「デジマ」程度の被害を受けることがあるので基本的な防除対策は行う必要がある。

5. 命名の由来

有明海と雲仙、多良岳の両峰に因む(明峰)。